

報道発表資料
平成 29 年 8 月 21 日
気 象 庁

御嶽山の火口周辺警報を解除

～ 噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引下げ ～

御嶽山では、2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、噴煙活動や山頂直下の地震活動は緩やかな低下が続いており、2017 年 7 月に実施した山頂付近の現地調査で、高温領域に広がりは見られず、噴煙・火山ガスの増加傾向は認められないことから、火口から概ね 1 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなりました。2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出しており、噴気活動の活発な噴気孔から概ね 500m の範囲では、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

以上のことから、本日（21 日）15 時 00 分に御嶽山の火口周辺警報を解除し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。併せて、噴気活動の活発な噴気孔から概ね 500m の範囲では、火山灰等のごく小規模な噴出に注意してください。

なお、これまでの噴火による火山灰の堆積等により登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

問い合わせ先

気象庁地震火山部火山課

電話：03-3212-8341 （内線 4524）

火山名 御嶽山 噴火予報：警報解除

平成29年8月21日15時00分 気象庁地震火山部

＊＊（見出し）＊＊

＜御嶽山に噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）：警報解除を発表＞
火口から概ね1 kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなりました。
＜噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ＞

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

御嶽山では、2014年10月以降噴火の発生はなく、噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は緩やかな低下が続いています。

2017年7月に実施した山頂付近の現地調査で、高温領域に広がりは見られず、噴煙・火山ガスの増加傾向は認められませんでした。

このように、火山活動の静穏化の傾向が続いていることから、火口から概ね1 kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったものと考えられます。

一方、2014年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出しています。状況によっては、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

なお、定期的に発表していた火山の状況に関する解説情報は終了します。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、特段の警戒が必要なくなりました。

長野県：王滝村、木曽町

岐阜県：下呂市

3. 防災上の警戒事項等

噴気活動の活発な噴気孔から概ね500mの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。

地元自治体等が行う立入規制等に留意し、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

＜噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ＞

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内等への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

御嶽山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ＞

御嶽山では、2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は緩やかな低下が続いています。2017 年 7 月に実施した山頂付近の現地調査で、高温領域に広がりはありません。このように、火山活動の静穏化の傾向が続いていることから、火口から概ね 1 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったものと考えられます。本日（21 日）15 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

一方、2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出しています。状況によっては、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

噴気活動の活発な噴気孔から概ね 500 m の範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。

地元自治体等が行う立入規制等に留意し、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況、噴気孔の状況（図 1～2、図 3－①）

2014 年 10 月中旬以降、噴火は観測されていません。

2014 年 9 月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙活動は、継続していますが、長期的には低下しています。2017 年 7 月 5 日から 7 日にかけて実施した現地調査では、2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔から勢いよく白色噴気がでていましたが、これまでもみられていた噴気孔周辺の高温領域の広がりには変化は認められず、噴気孔の温度は 2015 年以降やや低下しており、噴煙・火山ガスの増加傾向はみられませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3－②③）

山頂直下の火山性地震の発生回数は、2015 年中頃から 1 ヶ月あたり 50～90 回前後経過していましたが、2017 年 4 月以降は 1 ヶ月あたり 30 回程度とさらに低下しています。

・地殻変動の状況（図 3－④～⑦、図 4）

傾斜計¹⁾や GNSS²⁾連続観測では火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。GNSS 連続観測の一部の基線では、2014 年 10 月以降山体の収縮によると考えられる縮みの傾向がみられています。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 マイクロラジアンは 1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

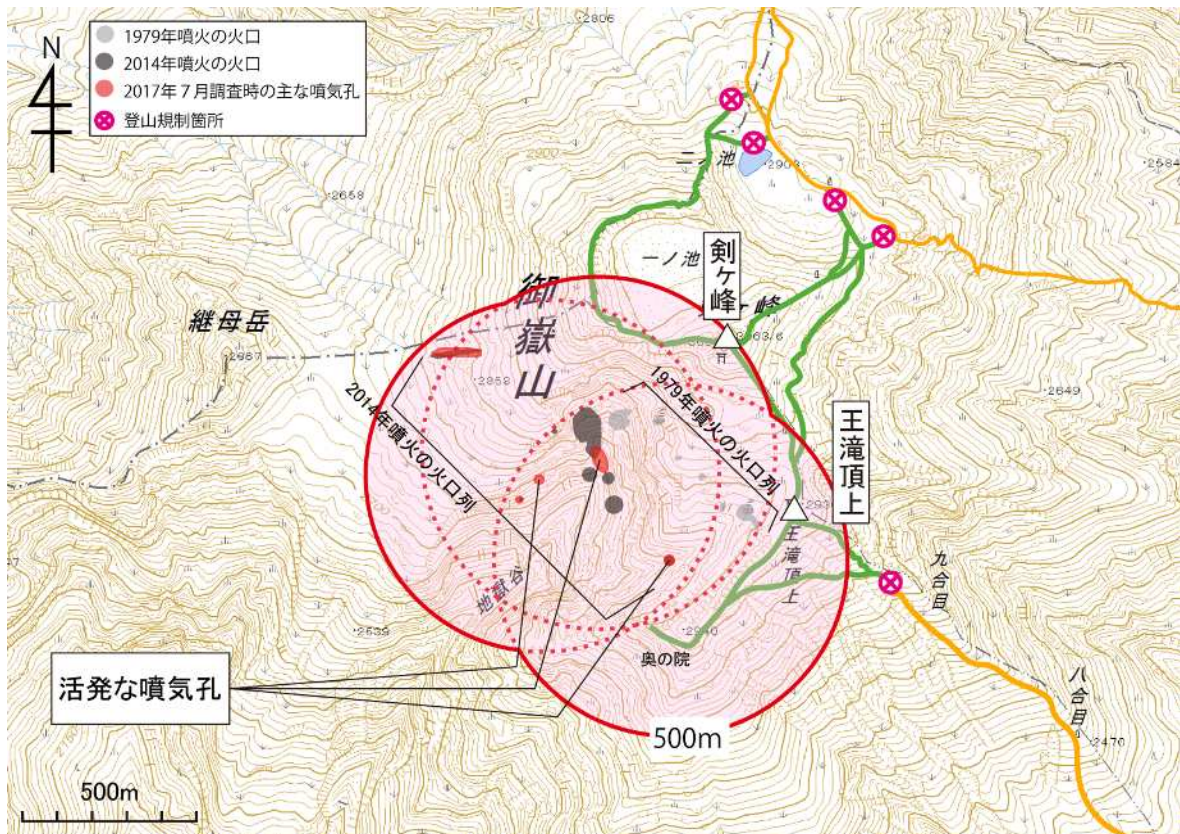
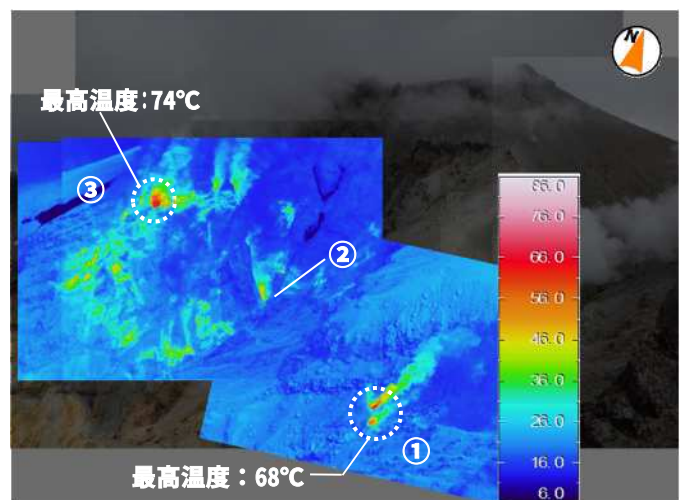


図1 御嶽山 注意が必要な範囲
・赤実線が活発な噴気孔から概ね 500mの範囲



2017 年 7 月 6 日 11 時 20 分撮影

図2 御嶽山 地獄谷の状況（奥の院より撮影）

・2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔（図中①～③）から勢いよく白色噴気がでていました。

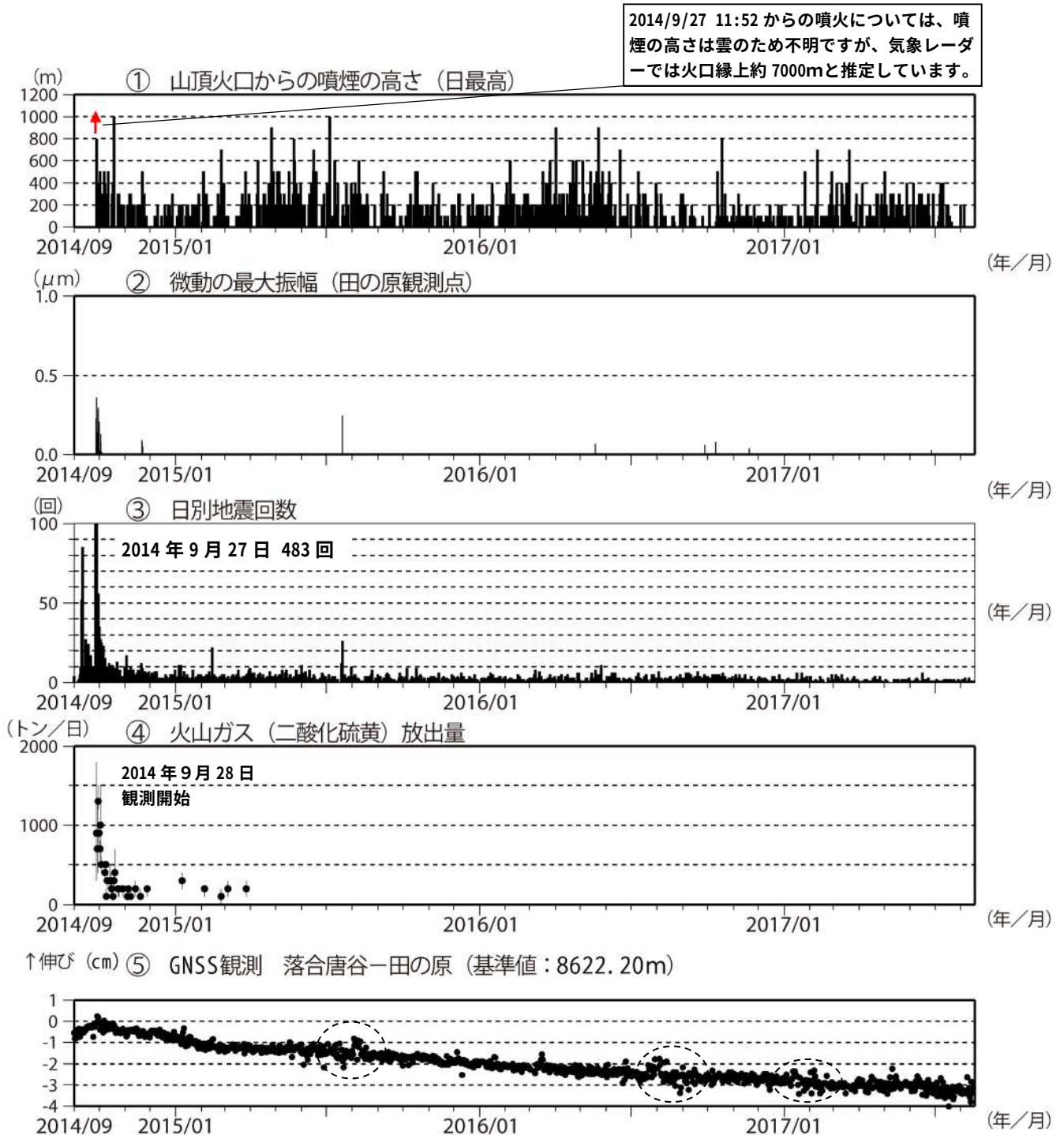


図3 御嶽山 最近の火山活動経過図（2014 年 9 月 1 日～2017 年 8 月 17 日）

- ①監視カメラによる噴煙の高さ 噴煙の高さは日最大値（噴火時以外は定時観測（09 時・15 時）の値）。矢印は噴火発生を示します。また、視界不良時には噴煙の高さが表示されていませんが、2014 年 9 月 27 日の噴火発生以降は噴煙が連続的に発生しているものと考えられます。
- ②火山性微動の最大振幅は田の原観測点の上下動振幅です。
- ⑤図 4 の GNSS 基線⑤に対応した基線長の変化を示します。点線で囲んだ変化は、火山活動によるものではないと考えられます。

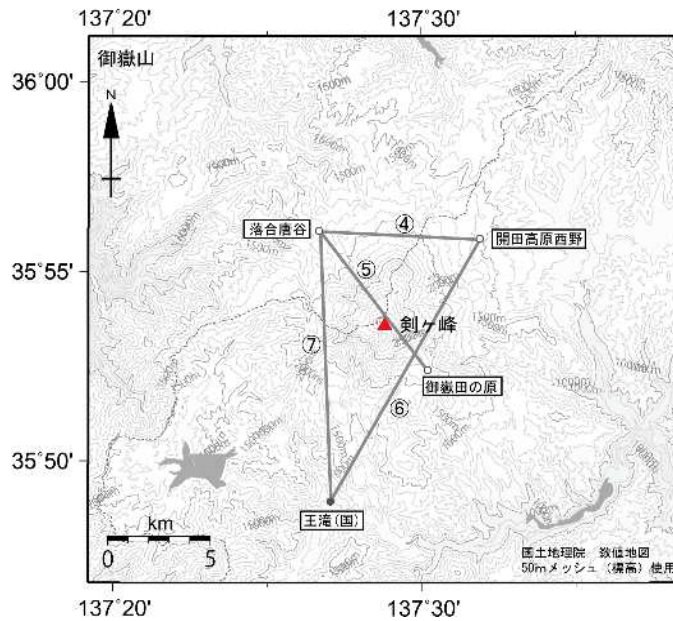
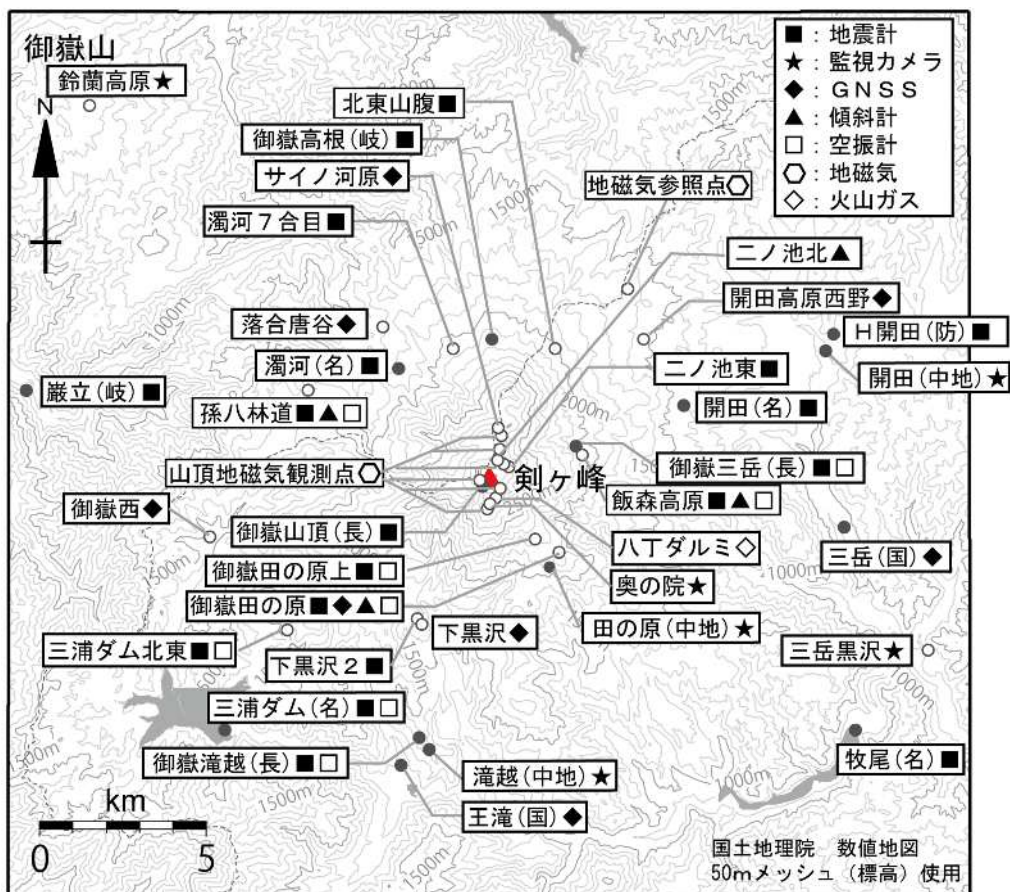


図 4 御嶽山 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。(国)：国土地理院
図中の GNSS 基線⑤は図 3 の⑤に対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(中地)：中部地方整備局、(防)：防災科学技術研究所、(名)：名古屋大学、
(長)：長野県、(岐)：岐阜県

図 5 御嶽山 観測点配置図

※御嶽山頂観測点からのデータは現在入っていません。